2012年9月号 第25号
三重県労働組合総連合
〒514−0015三重県津市寿町7−50
みえ平和と労働会館
TEL 059−223−2615
FAX 059−223−4495
E-mail mieroren@circus.ocn.ne.jp

みえ労連 ZENROREN

行事予定

9月17日（月・祝）中勢母親大会
9月21日（金）～23日（日）サマーセミナーin石川
9月23日（日）南勢ユニオン定期総会
9月24日（月）～ 自治体懇談が始まります
9月27日（木）北勢ユニオン定期総会
10月7日（日）建交労県本部定期大会

憲法をいかし、つくろう"安全・安心社会"
すすめよう対話と共同、組織拡大

みえ労連第24回定期大会で団結ガンバロウ！

みえ労連、第24回定期大会開催！

みえ労連は、8月5日（日）にサンワーク津（津市）で、第24回定期大会を開催しました。

発言者は14人で、それぞれの単産・単組の活動報告、大会議案について発言されました。議案は提案通り採決されました。

議長団には自治労連加藤代議員、生協労連福島代議員が選任されました。

議事運営委員には、中勢地域労組伊藤代議員、医労連浜中代議員、三好みえ労連幹事を、資格審査委員国公労連鍬田代議員、年金者組合飯田代議員、瀬尾みえ労連幹事が選任されました。

議案討論に14人が

みえ労連議長挨拶

8月31日に野田内閣が日本再生戦略を策定した。労働分野では有期雇用中心の雇用制度提言している。こんな決定を許すわけにはいかない。最大の闘争課題としていくこととなる。

来賓挨拶

第三銀行従業員組合浜口副委員長、新日本婦人の会三重県本部西川会長、日本共産党県委員会岡野県委員に続いて全労連江花常任幹事が挨拶されました。

全労連江花常任ご挨拶

県労連に結集され、国民生活を守るために連日奮闘いただいていること、自治体キャラバン、対話・協同などで全労連運動の一つの典型例をつくっていただいていると ころに敬意を表したい。

全労連大会では、安心安全社会の実現を、スローガンとした。

一点課題での共闘が広がっている。官邸前での怒りに基づく行動は市民が自らの意志で参加し、これが全国に広がっている。

課題はいっぱいあるが怒りに基づく取り組みを、組合結集につなげる努力をしていきたい。

災害対策に役立つ公衆電話数の維持を要求してきたが、23万台（全国）で下げ止まりとなっている。震災対策がらみで衛星電話も配備されるようになっている。

仲間増やしすすむ

中勢労組 日東電工支部

中勢地域労組日東電工支部の井伊代議員は、長い人は20年以上働いているが賃下げでマイホームを手放した人も出てきていた。

不満だらけで、2月に中勢地域労組に相談して労組を立ち上げた。仲間を増やしながら公然化し90人を超えた。80人もの組合員が参加する文字通りの団交をしている。3回の団交でいくつか要求が通った。

6月の契約更新拒否を心配したが全員更改できたことは大きな自信になった。

活動の原資を組織拡大で確保

中勢地域労組

労働相談を主体に活動。組合活動もお金がないと行動できない。拡大することで活動の原資となる。組織拡大ができたらみえ労連への上納を優先している。日東電工支部ができて120人の組合員になり上納を大幅に引き上げた。

また、日東電工の組合旗をプレゼントできるようになった。

闘いの成果現れる

通信労組
中川代議員

NTTの10万人合理化は、すさまじい。県内に1000人いる関係者のうちNTT本体の社員は30人ぐらいしかいない。

この攻撃を一定跳ね返して一段落したが、新たな攻撃も始まった。

地域に根ざした運動

南勢労組
中村代議員

南勢労連は、昨年発足し、毎月のカラオケ、PC講座に取り組んでいる。

春闘では、格差と貧困が見えるように取り組んだが、怒りをぶつけられないもどかしさが語られ、自らが行動を起こすことを確認した。

最賃に力を入れ、意見陳述、傍聴、異議申し立てなどを人数も出して取り組んでいる。

地域医療を守る運動では市民を巻き込んだ取り組みとなってきている。

春闘学習会で活性化

北勢労連
吉田代議員

大会後、役員となった。役員経験の中でわかったことは、北勢労連は若い人が多く、春闘交流会でも若い人に発言してもらった。694人でスタートして1180人まで増えてきた。トワイライトメーデーは5回目となっている。

春闘学習会で組織の報告は若い組合員からの発言が多くあった。

教育ネットの調査では先生の4人に1人は非正規教員の状態。1000枚のアンケートを配った。

青年部の活動に参加者多数

医労連
大嶽代議員

キャラバンを行い、看護協会と懇談した。認識の違いはあるが看護師の定着を求めて一緒に考えたいと一致した。

看護師の労働条件の確保を訴えた。

青年部の取り組みで6月10日に新入職員歓迎会を開催。66人も集まり、うれしい悲鳴となった。実行委員のみなさんが「楽しかった」と言ってくれたのがうれしい。

争議の訴え・報告

休憩時間を使って争議の訴えが行なわれました。

パナソニック不当解雇争議、社会保険庁による不当解雇争議の現状報告と訴えがあり、満場の拍手で激励しました。

名タク裁判和解、中勢採石販売協同組合での不当解雇事件の労働審判和解勝利の報告がされ、これも心のこもった拍手で祝福しました。

諸団体との対話と共同を進めて幅広い運動を

新役員のみなさん

県政を動かした運動

自治労連
小宮代議員

県が学童保育の補助金12％削減を提案したという新聞報道をきっかけに県内の学童に呼びかけ、500名の当事者名で知事要請。自治体議会も動かし、県議会でも撤回を要請した。案は採決されたが県知事は「補正予算で穴埋めをする」ことを確約した。

この成果を県内の全学童保育関係者に送り、組合づくりを進めている。

卒業生の就職支援を

聖母の家
山下代議員

聖母の家学園は知的障害者を対象としている特別支援学校で全国に14ある私立校のひとつ。90名の生徒と同数の教職員数が必要で、校舎建設費用の捻出に苦慮している。建設カンパをお願いしたい。

子供たちの就職後アフターフォローを担当している。障害者雇用は厳しいが、一人ひとりに寄り添ってあげることで継続できる可能性が広がる。

保育新システムへの取り組み

自治労連
加納代議員

子ども子育て新システムは保育破壊そのもの。親は自ら入園施設を探し歩くことになる。

保育の経費のほとんどが人件費だが、企業が入れば非正規保育士を雇い、補助金を利益に繰り入れることも可能となる。この法案阻止のため、地域単位で学習会を行い、2年間で8万筆の署名を集めてきて、四日市市議会では意見書が採択された。

対話と共同を実践してきた経験

自治労連
新家代議員

TPP、消費税と原発について対応してきた。全労連が提起した取り組みを実践しており、TPPでは農協、医師会との共同を行ってきた。TPPではJA、林業、漁協との協同が全国ではみられている。三重でも余地がある。

組織拡大では、アンケートで要求を取り出し、拡大へとつなげていきたい。

教育現場の中で取り組む

教育ネット
加藤代議員

日東電工労組との交流で、労組の重要性を再認識した。

外国籍児童の多い学校で働いていたが、どの国の子どもたちも心の持ちように違いがないと教育現場では理解している。

県交渉では、事務職員補助員の待遇改善に取り組み、忌引休暇を2日から7日にできた。

県内で学力テストが実施された。テストに参加すれば、教員を増やすことを県教委が打ち出し、参加を誘導している。

賃下げ反対闘争へ

国公
鍬田代議員

人事院勧告が出されず、国会で国家公務員の賃下げが決められた。

賃下げ率では「重大な懲戒処分を受けた」ときと同じもの。新採も1ヶ月分の給与が削減されている。震災復興名目なのに東北3県で働いている人も対象となっている。

反撃の裁判を始めて、8月中に第1回法廷が開かれる。

地域主権改革では、予算も人も地域には渡さない方針を出す。結局行政サービスの低下はさけられない。

みえ労連の財政充実に努力を

北勢労連
稲垣代議員

みえ労連への会費納入人員率は50％を切っている。すべての組合が納入人員率を50％以上とすることを目指して努力してほしい。

討論のまとめ

みえ労連
臼井事務局長

単産・単組からの納入率を80％とすることが目標。現状は50％を切る。非正規の組合員が増え、一方で国公のように新採の縮小で人員が減少している。厳しいが50％以上納入にご尽力いただきたい。

専門部については定例化を目指す。

本日は14人から発言を受けた。

中勢地域労組の外国人組合の状況は、全国から注目されている。

橋下大阪市長は自己責任を追求して公務職場のバッシングを進めている。これを許してはならない。彼は、公務員が市民に命令することを求め、職員は市民とともに働く職場を目指している。

格差集会について調査しながら検討していく。

TPPでは、タバコ外箱の「害がある」という文章がきついことを理由に、オーストラリアはタバコ会社から提訴されている。ISDS条項についてこのようになることを周知していきたい。

今期で退任する役員

退任する祖父江、三好両氏

今期で役員を退任される医労連の平田さん、建交労の三好さん、自治労連の祖父江さんが紹介され、代表で建交労三好さんが挨拶。

入社してすぐ、労組の執行委員に手を挙げた地である。原点であったこの地で退任の挨拶をすることになった。

みなさん組合には自ら進んで入ったのだから楽しくやってほしい、とエールが送られた。

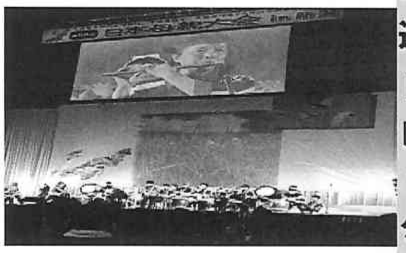
※各単産、単組を介してみえ労連まで申し込み願います。

みえ労連トピック

三重県の最賃724円に

8月22日(水)三重地方最賃審議会が開催され、7円引き上げ、724円とすることが決定された。みえ労連・南勢労連・南勢ユニオンが提出した異議申出に対し、使用者委員は饒舌に反対意見を表明。労働者委員は「議論を尽くして決めた。これ以上検討は必要ない」と一言。

日本母親大会



8月25日(土)26日(日)日本母親大会が新潟で行われ、のべ1万3,200人が参加。三重県からも30人が参加。

記念講演ではジャーナリスト・斎藤貴男さんが、格差と貧困を拡大させるアメリカや財界主導の政治の害悪を批判。すべての人が幸せになる社会をめざそうと呼びかけた。

官邸前行動連帯集会

9月7日(金)津市まんなか広場で、再稼動反対・三重に原発はいらない、官邸前行動連帯集会が行われた。県内から150人が集まり、1分間スピーチや自作のプラカードで「原発なくせ」の意思表示。次回は、10月12日(金)17:30~まんなか広場。

三重県医労連定期大会

9月8日(土)県医労連が定期大会開催。新たな方針を決定し新委員長に辻まり子さんを選出。書記長は引き続き瀬尾知広さん。

寿町から

▽9月1日は「防災の日」、3日は日本が第二次大戦の降伏文書に署名した日である。

▽「防災の日」は関東大震災を記念して制定されたが、21世紀に生きるわれわれは、3月11日を「防災の日」としたい。

▽関東大震災では地震による火災で多数の死者を出したが、3月11日は、地震と津波の被害以外に、原発事故という「人災」が加わったことが、その理由である。

▽安全神話をふりまき有数の地震・津波国である日本に原発を設置するには、それらに対する万全の対策が必要であることを無視し、企業の利益を優先させてきた、政治家や電力業界の人たちの罪は大きい。

▽終戦の日に「一死大罪を謝す」と言って割腹自決をした陸軍幹部がいたが、原発推進派の東電幹部や政治家はそのような気概を持った責任の取り方をしていただきたい。

▽電気事業連合会の発表によれば、猛暑が続いたこの夏でも、企業や市民の節電意識の高まりで、原発がなくても電力供給に心配がないことが判明した。

▽今こそ、原発廃止の政策を推進する時である。(島)

編集後記

定期総会を終了し、新しい役員体制で活動が始まりました。これからも組合の活動を掲載していきます(K)